

19年センター試験情報

19年セ試リスニングテストは5分早まり、
1月20日(土)“17:35開始”！

ICプレーヤーの操作ボタンは、
すべて表示ランプ点灯まで“長押し”！

報道された受験番号ミス「救済措置」と、
本人成績「事後開示」との関係

旺文社 教育情報センター

18年7月

大学入試センターは先ごろ、19年1月20日(土)・21日(日)に実施される19年センター試験の時間割等を発表した。基本的には18年と変わらないが、第1日目最終コマの英語リスニングテストの開始時刻が5分早まり、“17時35分”スタートとなる。

また、ICプレーヤーの操作では、ボタン操作の失敗を防ぐため、表示ランプが点灯するまで(「電源ボタン」以外は音が出るまで)、各ボタンを“長押し”するように改善された。

ところで、センター試験の解答用紙における受験番号ミスの救済措置についての報道が最近あった。

そこで、リスニングテストにおける18年との主な変更点や改善点、リスニングテストの進行イメージ、及び救済措置と本人成績の通知が2次出願後になる「事後開示」との関係について、以下にまとめてみた。

19年リスニングテストの主な変更点、改善点

実施上の主な変更点

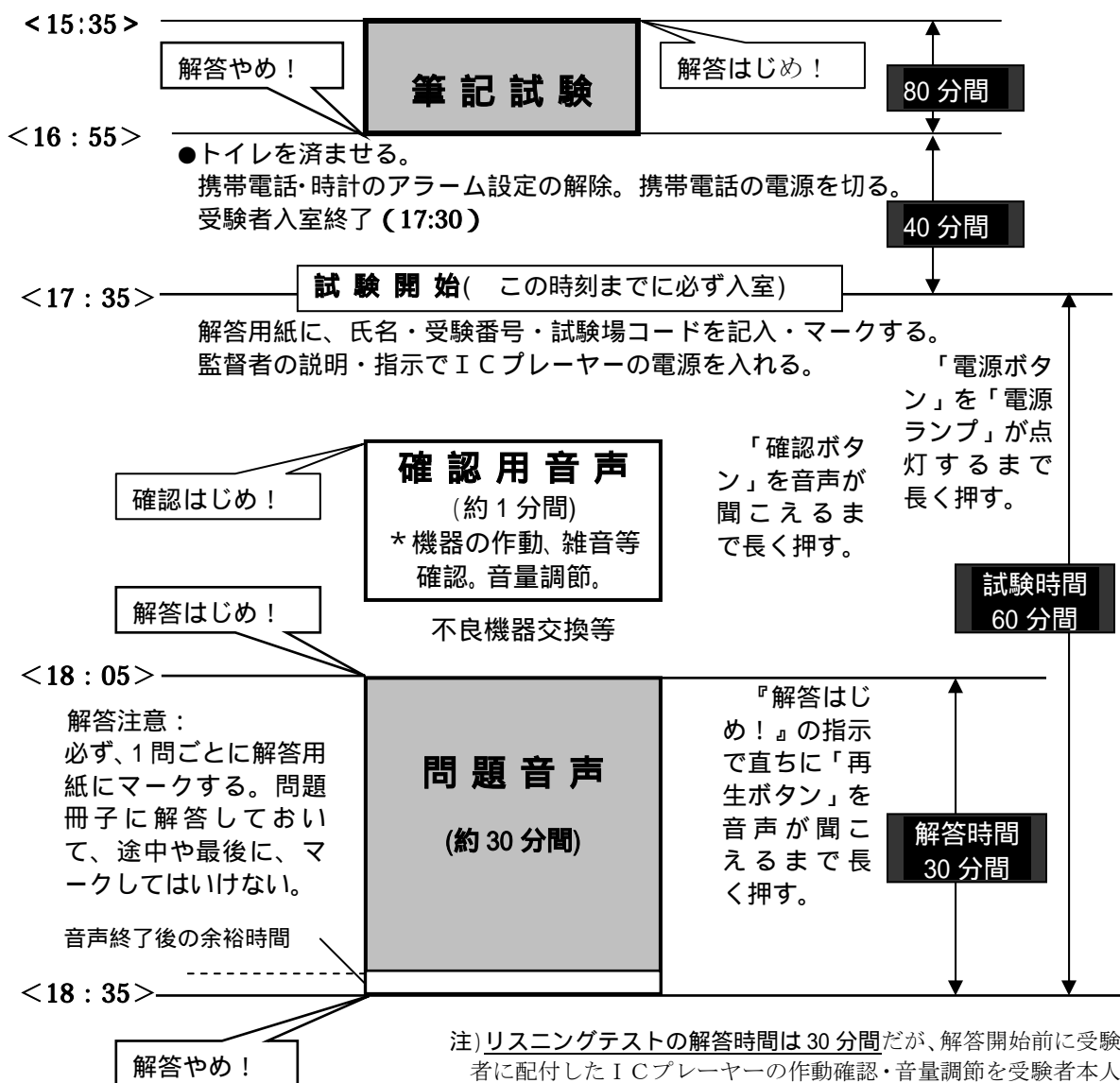
	18年	19年
試験時間	17:40～18:40	17:35～18:35
「再テスト」の名称	「再テスト」	「再開テスト」
	注)「再テスト」では最初からやり直すイメージを与えるので(中断箇所以降のみについてテストを再開)、「再開テスト」に名称を変更。	

ICプレーヤー等の主な改善点

		改善事項
ICプレーヤー	本体表示	・ランプが点灯するまで操作ボタンを長く押すよう注意を促すため、ICプレーヤー本体に注意事項を印刷。
	操作ボタン	・18年は「3 再生ボタン」だけが長く押し続けないと「作動ランプ」が点灯しなかったが、この「再生ボタン」の長押し失敗を防ぐため、「1 電源ボタン」「2 確認ボタン」についても“長押し”とする。
	絶縁シート	・指が滑らないよう、中央の矢印部分をくりぬき、引き抜きやすくする。
音声メモリー		・ゴミ等が付着しないよう、音声メモリーをひとつずつ袋に収納した状態で受験者に配付。
イヤホン		・あらかじめICプレーヤー本体に差し込まれた状態で配付。

* ICプレーヤー操作の「疑似体験」は、大学入試センターのHP (<http://www.dnc.ac.jp/>)で!

リスニングテストの進行(イメージ)



注)リスニングテストの解答時間は30分間だが、解答開始前に受験者に配付したICプレーヤーの作動確認・音量調節を受験者本人により行うため、試験時間は「17:35～18:35」の60分間となる。

受験番号ミス救済措置と、本人成績「事後開示」との関係

<救済措置>

センター試験の解答用紙(マークシート)に受験番号をマークし忘れたり、誤記したりした場合、コンピュータシステムによる読み取りでは撥ねられて零点となってしまう。新聞報道によると、解答用紙に記入された氏名や座席順などから本人を特定して採点する救済措置が、18年センター試験では約7,000件あったという。

ところで、センター試験の前身である共通1次試験(国公立大のみが利用)が開始(昭和54<1979>年)された当初はマークミス等を零点としていたが、教育的配慮から個人が特定できる場合に限り採点することとし、昭和59(1984)年以降、救済措置を講じている。こうした措置については、入試関係者の間では以前から知られていたことである。

他方、解答科目のマークミス(無マークや複数マーク)でもエラーとなり、零点となってしまう。例えば、地理歴史では、世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理Bの6科目のうち、解答科目にマークし忘れると、解答用紙は各科目共通(1枚)であるため、解答科目を特定できず、零点となる(18年は54件あったという)。

その場合、解答照合(採点)を6科目それぞれで行えば(1枚の解答用紙を6回照合することになる)、一番高得点を示した科目が受験科目であろうと推測できる。しかし、実際に受験した科目以外の科目にヒットすることもあり得ることで、その場合、出願した大学・学部(学科)の入試科目と合わず、失格となってしまう恐れもある。こうしたことから、大学入試センターでは現在、解答科目のマークミスについての救済措置は講じていないという。

小坂文科相はこうしたミスを防ぐため、大学入試センターに解答用紙のマークシートの書式などを見直すよう指示したという。

19年センター試験については、『受験案内』(出願書類とともに、9月1日から受験生に配付)で受験番号のマークミスについて、次のような具体例を示して注意を喚起したり、マークシートの受験番号欄の右横にマークした英字を確認するための英字を印字したりして、ミス防止を図っている。

マークミスに注意!

受験番号のマークミスに多くみられる例

事例1．間違った数字にマーク(例；1を0にマーク、2を1にマーク)

事例2．隣り合う数字を逆の順序でマーク

事例3．英字のマークがない

事例4．数字・英字のすべてにマークがない(無マーク)

<本人成績の「事後開示」>

私立大センター試験利用入試の中には、センター試験の受験前に利用大学へ出願する、所謂「事前出願」もあるが、一般的にはセンター試験の成績を基に、志望大学への出願を行

うのが本来の入試の“順序”であろう。前述のように、マークミスなどから、採点された成績と自己採点結果との大きな得点差は出願に際し、看過できない重要事項だ。そのため、受験生本人への成績開示を国公立大の2次出願前に行う、いわゆる「事前開示」を求める声は以前から多く寄せられていた。

現行の「自己採点制度」は共通1次試験の開始当初、諸事情から考え出された“次善の策”ともいえる。

一方、旧・大学審議会は平成12年11月の答申、「大学入試の改善について」において、次のような提言を出している。

- ・平成14年度入学者選抜から、大学入試センターにおいて、入試日程終了後にセンター試験の成績を受験生本人に開示する（事後開示）。
- ・各大学の個別試験出願前に受験生本人に開示すること（事前開示）については、事務処理に要する時間を考えると現在の入試日程では物理的に困難であることから、センター試験の複数回実施に向けた入試日程の見直しに関する検討において事前開示を可能とする方向で考えていく。

(旧・大学審答申「大学入試の改善について」<12年11月>より)

この答申では、現行の入試日程で「事前開示」を行うことは、事務処理上の時間的・物理的な問題から困難であると結論づけている。

この事務処理上の問題点の一つとして、前述の「救済措置」があげられる。1件の不明な受験番号を特定するために、不正防止上、複数の立会人による検索が必要とされ、約7,000件すべての検索は人海戦術で行われているようだ。その時間と手間は大変なものであるという。もし、「救済措置」を行わず、コンピュータ処理だけで済ませてしまえば、2次出願前に本人成績を受験生に通知することが可能であるかもしれない。

現行のような「救済措置」を行いつつ、「事前開示」を実施するとなれば、センター試験の実施時期を前倒しにするか、2次試験の日程を繰り下げるしかない。4月の大学入学を踏まえるならば、現行の2次試験日程は崩せないという。そうなると、センター試験の実施を早めるしかないが、それでは高等学校教育はじめ、大学側にも多大な影響を及ぼすことになる。こうしたことから、「事前開示」は難しい課題を孕んでいる。

なお、答申にあるように、14年から「事後開示」（センター試験出願時に成績開示を希望し手数料800円を払い込めば、4月中旬以降、成績通知書が送付される）が実施されており、18年は約38万2,500人(センター試験志願者の約70%)が成績開示を希望した。